

[第25回散策の会]駒込・巣鴨界隈巡り

このところ、お寺巡りやお墓参りと抹香くさい場所が続き、コース立案者は世にいう「墓マイラー」ではないけれど、少々気にはしています。でも、都内の文化財巡りというとどうしても神社・仏閣を避けて通れないという事情もあります。

今回もまたまたお墓巡りですが、気分の転換に特別名勝「六義園」、それに加えて“おばあちゃんの原宿”に“おじいちゃん”が行ったってようかろうと、「とげぬき地蔵」を加えてみました。

●吉祥寺

現在の武蔵野市・吉祥寺のルーツともなったお寺です。

井原西鶴は『好色五人女』の中で、八百屋お七と小姓の吉三郎との恋物語の舞台をこの寺に設定しましたので、二人の比翼塚がありました。

ここには榎本武揚の墓や二宮尊徳の墓もあります。

江戸時代には学寮「旃檀林」があり、1000人もの学僧がここで学んでいたそうで、これが後に駒沢大学となりました。

そのためか、都心でこんなにも広大な寺域があるのにはビックリします。



吉祥寺 山門 吉三郎・お七の比翼塚 海軍中将子爵榎本武揚の墓 二宮尊徳の墓 学寮「旃檀林」門

●六義園

どの風景を切り取ってみても、一幅の絵になる様に造られています。

木々の緑が美しく、足下にサツキがわずかに花を残していました。

川越城主の柳沢吉保が5代將軍綱吉から下屋敷として下賜された土地を、自ら設計して「回遊式築山泉水庭園」に造園しました。

明治になると岩崎弥太郎（三菱の創業者）が手に入れ整備し、今は都立庭園となっています。数々の江戸の大火や関東大震災、東京大空襲も免れて、国の特別名勝に指定されています。



六義園門 六義園で集合写真 回遊式築山泉水庭園 六義園庭園風景
上野の西郷さんの銅像を造った彫刻家の高村光雲、それに『智恵子抄』で知られる高村光太郎・智恵子夫妻一族のお墓があります。そのほか岡倉天心や二葉亭四迷、高田早苗（早大の設立に参加、後に総長）ほか著名人が多くここに眠っております。
ここはその名のように「ソメイヨシノ」の故郷といわれています。



高村(光雲・光太郎・智恵子)一族の墓

岡倉天心の墓

二葉亭四迷(本名長谷川辰之助)の墓

高田早苗総長の墓

●慈眼寺

染井靈園を抜けるとすぐにそのまま慈眼寺へと入ります。

愛用の座布団と同じ寸法と形の芥川龍之介の墓、隣には芥川比呂志(俳優)など一族の墓がありました。

他に谷崎潤一郎の墓石(京都にも分骨)と、不仲説のあった弟の精二(早大教授)のものも下見時には確認したのですが、本番では見つけ出せず失礼してしまいました。



芥川龍之介の墓



谷崎潤一郎の墓(下見撮影)



谷崎精二早大教授の墓(下見撮影)

●本妙寺

慈眼寺から細い路地をちよこっと歩くと、いま普請中の本妙寺です。

遠山の金さん(江戸町奉行 遠山景元)、同時代の剣豪 千葉周作、それに歴代の本因坊の墓があります。

このお寺は明暦の大火(振袖火事)の火元(諸説あり)といわれ、大火の供養塔がありました。明治の末期に本郷から現在の場所に移転しました。



遠山金四郎の墓



千葉周作の墓



歴代本因坊の墓



明暦の大火供養塔

●巣鴨菜園跡

江戸後期の薬用植物の栽培地で、日本で初めて綿羊を飼育した場所でもあります。現在は東京都中央卸売市場豊島市場となっています。帰途に山本さんの案内で立ち寄りました。

●とげぬき地蔵

「おばあちゃんの原宿」とか“天国に一番近い場所”なんて呼ばれている巣鴨地蔵通りの商店街には、甘味処・食事処・和菓子屋・高齢者向けの衣料店など、安価でおばあちゃんの欲しがるものばかり並んでいます。おばあちゃんが多く参拝するからこのようだ店が多くあるのか、こんな店ばかりだからおばあちゃんが集まるのか、どっちでしょう?

「とげぬき地蔵」の境内にある「洗い観音」には、心身の悪い所を直してもらおうと参拝客が群がっていました。中には頭をなでている方もいましたが、もう手遅れではないでしょうか?

土曜日の午後5時近くでも人波整理用の金属柵の中に並ぶ人も多く、我がグループは時間の関係から横目で見るだけで退去しました。



巣鴨商店街界隈



とげぬき地蔵参道



洗い観音

●真性寺

中仙道の道中の安全を祈願する地蔵菩薩の銅像があります。
これは「江戸六地蔵」の一つで、高さ3.45mから衆生を見下ろしていました。



江戸六地蔵の一本



六地蔵の前で集合写真

●懇親会

散策後に恒例の懇親会をこれまでお馴染みの「土間土間」チェーンの巣鴨店で行いました。
カラッとした暑い日で、“人はなぜ歩くのだろう?”という疑問に、琥珀色の明快な答えがのどを過ぎていきました。

参加者

伊藤(徹)・榎川・国友・佐藤(俊)・滝沢・竹内・土井・野村・馬場・堀田・堀田夫人・山本・横田・千葉(国友の友人)(14名)

文:佐藤(俊)写真:山本・国友・(荒木)